

# 飼料用米の多収品種 - 水稻新品種「モミロマン」 -

食料自給率の向上のために国産飼料の生産拡大が求められています。そこで、生産調整を行っている水田を利用した飼料用水稻、特に飼料用米の生産が注目されています。この要望に応えるのが新品種「モミロマン」です。



写真：水田での草姿  
左「モミロマン」 右「タカナリ」

モミロマンは多肥栽培でも倒れにくいのが特長です。



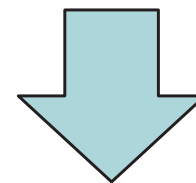
写真：籾(上段)と玄米(下段)の比較  
左「モミロマン」中央「タカナリ」右「日本晴」

モミロマンは玄米の外観品質が極めて悪く、一般米と識別できます。

粗玄米重(t/ha)		
モミロマン	タカナリ	日本晴
8.2	7.2	6.0

「モミロマン」は、粗玄米重が「タカナリ」より15%、「日本晴」より40%多収です。さらに、耐倒伏性に優れ直播栽培に適します。

耐倒伏性		
モミロマン	タカナリ	日本晴
極強	極強	やや強



「モミロマン」の普及により、関東以西での飼料用米の生産量の増大が期待されます。

To improve the food self-sufficiency in Japan, the increase of domestic production of forage crops is required. On the other hand, adjustment of rice production yielded a number of paddy fields laid fallow. Growing fodder rice cultivars in the fallow paddy field will effectively enhance the domestic forage production and decrease fallow paddy field. The new rice cultivar 'Momiroman' is suited for grain feed production in the Kanto area and western part of Japan.